

(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略に関するパブリックコメント一覧と対応方針

【反映区分】 「A」 計画等に盛り込むもの 「C」 計画等に盛り込まないもの  
 「B」 計画等に盛り込み済みもの 「D」 その他、要望・意見・感想等

※ 「(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略」は「デザイン戦略」と表記します。

No.	要 旨	市の考え方	反映区分
1	<p>5ページのデザイン戦略の対象区域について、盛岡駅周辺などの4エリアが記載されており、都市再生整備計画（盛岡市中心市街地地区）と同じ区域だと思われるが、区域が不明確なので説明が必要と思われるのと、8ページの「盛岡市中心市街地全体の特徴・課題及び市街地全体のまちづくりの方針」と目次の表記が一致しておらず、示されている4つの方針について、ここに掲載するのであればどこから引用しているのか整理すべきではないか。</p> <p>また、27ページの盛岡市中心市街地全体の将来ビジョンは、まちづくり方針のイメージ及び公共空間整備・民間の取組のアイデア（提案）と同じものであり、ここに記載する必要があるかなど、整理すべきではないか。なお、27ページに限らず全体的に文字フォントが小さく読みにくい。</p>	<p>表記の不一致につきましては、御意見のとおり修正し、説明の追記や記載内容の整理、フォントサイズ等につきましては、御意見を参考として、視認性を高める工夫をします。</p> <p>また、各ページの位置付け等につきましては、中心市街地全体のまちづくりの方針は、中心市街地全体の特徴と課題から4つの方針を示したものです。</p> <p>27ページの「(1) 盛岡市中心市街地全体の将来ビジョン」は、各エリアの将来ビジョンを中心市街地全体で俯瞰して確認するためのページとしています。</p>	A
2	<p>歩行者回遊とモビリティについて、9ページと28ページにそれぞれエリアごとの特徴と課題、エリアごとの将来ビジョンを掲載しているが、エリア全体に関わることなので8ページの特徴と課題及び27ページの将来ビジョンそれぞれの(1)に含めるか、エリアごとの特徴と課題及び将来ビジョンを(3)とし、(2)として整理すべきではないか。</p>	<p>9ページの「(2) エリアごとの特徴と課題」につきましては、「～歩行者回遊・モビリティ～」を(2)とし、(3)をエリアごとの特徴と課題、28ページについても同様に「～歩行者回遊・モビリティ～」を(2)とし、(3)をエリアごとの将来ビジョンにそれぞれ修正します。</p>	A
3	<p>現在の内容は市民や民間が利活用する資料として文字が多く、目指す方向性が抽象的なためデザイン戦略によって何をしたいのかが捉えにくいと感じる。</p> <p>4ページに生きた計画として活用されるものを目指す旨の記載があるが、想定される具体例や活用例についても記載し、「開発を行う外部業者向けに、外からは分かりにくい住民が大切にしているものを可視化する」など、対象とする主体と期待される効果の例示をつけるべきではないか。</p>	<p>御意見を参考として、デザイン戦略が目指す方向性や活用例などを解説する内容を追記します。</p>	A
4	<p>合同会社homesickdesignがnoteで公開しているMORIOKA AGORAの企画書のように、デザイン戦略の内容をかみ砕いた副読本的なものがあるとよい。また、普及版やWEB版など、簡単に参照できる外部資料の作成を検討して欲しい。</p>	<p>企画書に記載されているデザイン戦略の意図の部分盛り込み、より分かりやすくなるよう修正します。</p>	A
5	<p>10ページ以降の「エリアごとの特徴と課題」についてエリア全体の課題は図面上に記載がないが、端の空いているスペースでもよいので記載して、右側の図面だけで全ての課題や取組を把握できるようにしてはどうか。</p>	<p>表示する文字と地図のバランスの問題もありますが、御意見を参考として、視認性を高める構成に修正します。</p>	A
6	<p>エリアごとの内容を無理に1ページに収めずに、図と要旨だけを載せたまちづくり方針のイメージを別ページにわけてもよいのではないか。</p>	<p>御意見を参考として、1ページあたりの情報量を調整し、より見やすい体裁に修正します。</p>	A
7	<p>19ページの図の専立寺の取組が【取組（行政）】となっているが、誤りではないか。</p>	<p>御意見のとおり、誤りですので【取組（民間）】に修正します。</p>	A
8	<p>多数のカタカナ語が使用されているが、関係者のみ理解すればよいものではないので、その意味や市での定義などの解説が必要ではないか。</p>	<p>御意見を参考として、意味が伝わりにくいと思われる言葉や制度の名称等については、言い換えや用語解説を加えることなどにより読みやすさの改善を図ります。</p>	A
9	<p>49ページ以降に実現化方策が掲載されているが、参考資料として用語解説をつけるなど、これらの事業や制度についての概要の説明が必要ではないか。</p>	<p>御意見を参考として、意味が伝わりにくいと思われる言葉や制度の名称等については、言い換えや用語解説を加えることなどにより読みやすさの改善を図ります。</p>	A
10	<p>エリアプラットフォームについて、先の全員協議会で配布された資料では市の考え方が説明されているが、このデザイン戦略では全く使用されずエリアマネジメントという言葉が使われている。両者は同じ意味なのか、別なのであれば説明が必要ではないか。また、エリアマネジメントという言葉は大通商店街エリアなど複数のエリアに登場するが、内容としては全てのエリアに共通するものではないのか。</p>	<p>エリアプラットフォームは、対象とするエリアにおける様々な主体が当該エリアのまちづくりについて協議・検討する組織であり、エリアマネジメントは特定の地域やエリアにおける社会課題の解決やエリア価値の維持・向上を目的として、居住者や事業主、地権者等による主体的な活動も含め、官民一体で進めていく取組を指します。</p> <p>エリアマネジメントは、全てのエリアにおいて有用な取組ですが、各エリアの状況に応じて取り組む内容が異なるものです。なお、デザイン戦略内の用語について、言い換えや解説を加えることなどにより読みやすさの改善を図ります。</p>	A

(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略に関するパブリックコメント一覧と対応方針

【反映区分】 「A」 計画等に盛り込むもの 「C」 計画等に盛り込まないもの  
「B」 計画等に盛り込み済みもの 「D」 その他、要望・意見・感想等

※ 「(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略」は「デザイン戦略」と表記します。

No.	要 旨	市の考え方	反映区分
11	道路空間再配分、道路空間再編とは、現在歩道がない道路について歩車道の幅員を見直して歩道を設置するという意味なのか、また両者に違いはあるのか。	道路空間再配分による歩行者中心の街路空間の形成につきましては、原則として道路幅員を広げることなく、歩行者が通行しやすいスペース（歩行者空間）の形成を目指すものです。必ずしも車道と歩道の間をブロック等により物理的に分離するものだけではなく、舗装色や材料を分けるなどして歩行者スペースを視認しやすくするといった方法も考えられ、関係者に意見をききながら官民連携で取り組むことを想定しています。 なお、道路空間再配分と道路空間再編につきましては、同じ意味で使用しておりますので表記を道路空間再配分に統一します。	A
12	モビリティの導入によるエリア間の連携とは、新たな移動手段の導入を検討することなのか、言葉の定義づけをすべきではないか。	モビリティにつきましては、主に「移動手段」という意味で使用しており、様々な交通手段を指すものとして用語解説を加えることなどにより読みやすさの改善を図ります。	A
13	46ページの北上川エリアにおいて、「民間事業との連携による高質化の推進」とあるのはどのような意味なのか。また、具体的な実施の目処はあるのか。	高質化につきましては、30ページの「①民間開発に合わせた左岸側の水辺空間形成の検討（提案）やまちづくり方針のイメージ「街路・広場整備（提案）」のとおり、道路や民間開発においてまちと川をつなぐ空間づくりを図り、まちなみの質をより良くすることを意味しておりますが、具体的な実施時期が定まっているものではありません。解説につきましては、言い換えや用語解説を加えることなどにより読みやすさの改善を図ります。	A
14	46ページの大通商店街において、「エリマネの導入に関する官民での検討」とあるが、「エリマネ」は正式名称で書くべきである。	エリマネにつきましては、御意見のとおり略語であることから、「エリアマネジメント」に統一します。	A
15	49ページの「■想定される対象エリア」について、大手先通りエリアの前に「櫻山・」がつくのではないか。	市議会全員協議会で配布した資料では御指摘の表記となっておりますが、パブリックコメント時の資料では「櫻山・大手先通りエリア」として修正しております。	B
16	デザイン戦略によって中心市街地の価値や魅力を高めて来訪者を増やすことが大きな目的になると思うが、対象とする者の属性が明示されていないので、居住エリア、世代、訪問目的のような大まかな区分を設けるとか、個別計画に対してそうした区分へ言及するようデザイン戦略の側から求めているかどうか。 現在の内容では、実施者側の視点から都合の良い事項だけが掲載されているため、来訪者の視点がなく、そもそもデザイン戦略を作ることによって誰にとって何が良くなるのかという点が伝わらないように思う。	デザイン戦略は、行政と民間とが連携し、中心市街地におけるまちづくりの将来像と実現のための方策を示すものであり、9ページからの「2. 盛岡市中心市街地の特徴と課題」で各エリアの課題等を整理し、26ページからの「3. 盛岡市中心市街地の将来ビジョン」において、それぞれの価値や魅力の向上に繋がり得る事項を行政側からの「提案」として記載することで、官民が連携してより良い中心市街地をつくっていく上で検討のベースとすることを目指していることから、多くの方々がまちづくりの将来像（理想像）を共有できるように表現したものです。 このため、具体的にどのような属性の方を主なターゲットにしてまちづくりを進めるかといった視点は、各種個別計画に基づくアクションプランとする際に、整理していくものと考えております。	C
17	デザイン戦略の計画期間を整理すべきではないか。46ページ以降で「エリアごとの方針と地域の状況を踏まえた、当面の対応（案）」が示されているが、計画期間や目標年次がわからない中で「当面」とはいつからいつまでなのか。	デザイン戦略は、官民連携によるまちづくりを進める上での検討のベースとなるよう、長期的視点を持った、主に「まちの空間整備」の方向性・指針を示そうとするものであり、行政計画として具体的に期間を設定し、予算額や年次の実施内容等を示すものではありません。 このため、「当面」は、具体的な期間を示すものではなく、優先的に取組を考えるという趣旨で使用しております。	C

(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略に関するパブリックコメント一覧と対応方針

【反映区分】 「A」 計画等に盛り込むもの 「C」 計画等に盛り込まないもの  
 「B」 計画等に盛り込み済みもの 「D」 その他、要望・意見・感想等

※ 「(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略」は「デザイン戦略」と表記します。

No.	要 旨	市の考え方	反映区分
18	歩行者回遊・モビリティに関する当面の対応も整理すべきではないか。	歩行者回遊・モビリティにつきましては、交通関係の既定計画と整合を図りながら進めていくこととします。	C
19	LRTの導入に関する調査検討について、9ページのエリアごとの特徴と課題には記載があるが28ページのエリアごとの将来ビジョンにはないため、盛り込んで欲しい。	9ページ「(2) エリアごとの特徴と課題～歩行者回遊・モビリティ～」に掲載している「民間の取組」につきましては、主に実際にまちづくりに携わる方々へのヒアリング等において伺った内容をまとめております。将来ビジョンでは基幹公共交通(幹線系)の検討を挙げておりますが、モビリティについては、十分な調査検討が必要であり、その検討状況に応じてデザイン戦略を更新してまいります。	C
20	歩行者回遊・モビリティの将来ビジョンについて、都市計画画では存在する都市計画道路の整備事業など実現性に疑問があるものも見受けられるが、市としてどの程度実現可能性を判断して掲載しているのか。	デザイン戦略は、すでに取り組んでいるもののほか、近く取り組む予定があるもの、現時点では未着手のものも含め、中心市街地の魅力、価値の向上に資すると思われるものを取りまとめており、中心市街地全体及び各エリアのより良い将来像に向かって官民で連携して取り組んでいくものとしております。	C
21	歩行者回遊・モビリティの将来ビジョンについて、中心市街地範囲の範囲(赤破線)に盛岡駅の西口方面がカットされているが、ここも範囲として示す必要があるのではないか。	デザイン戦略における歩行者回遊、モビリティの将来ビジョンは、主にもりおか交通戦略で示す中心市街地における交通の方針を基にしていることから、盛岡駅の西側については掲載していませんが、将来的な検討の必要性はあることから、今後のまちづくりの状況に応じて追加する可能性があります。	C
22	<p>盛岡の中心市街地の魅力は地区ごとの多様性にあるが、現在のデザイン戦略の内容では、これらが「盛岡らしさ」としてどの地区も同じであるように平均的、抽象的に扱われているように感じられるため、各地区が持つ唯一無二の個性をより一層活かすような内容とするべきである。そのための手法として、エリアごとの特性に応じたデザインガイドラインの策定、自分たちの街の魅力向上につながる活動を行う団体等を支援する仕組みづくり、建築家、デザイナーなどの専門家と相談できる場の拡充、歴史的建造物等の保存や活用につながる納税制度を活用する仕組みを盛り込むことなどを検討してはどうか。</p> <p>また、行政が何を指し何をしようとしているのかという全体像や目的が市民に伝わり切れておらず、各エリアの内容については住民の暮らしに関わる要素を扱っているにもかかわらず、一部関係者への聞き取りや現地調査のみで進めていて拙速な印象があるため、内容が優れているとしても、市民には「一方的に決められた」と受け取られる可能性がある。そのため、デザイン戦略の作成業務を担当する事業者と市民が対話する機会を増やし、専門用語を避けてデザイン戦略の意図や内容を伝えたり、市民が気軽に意見を言える座談会等を各エリアで開催したりしてはどうか。</p>	<p>デザイン戦略は、行政と民間とが連携し、まちづくりの将来像と実現のための方策を示すものであり、「生きた計画」として更新を続けていくものとしています。目に見えるかたちで表現することで、より多くの方々が興味を持ち、共感し、参加し、共に創り上げていく計画になっていくと考えており、まちづくりを進める目的と手段に応じ、時にアイデア集成として、参考資料として、ベース図として紐解かれることで、「議論のきっかけ」となるものと考えております。そのため、デザイン戦略の内容が皆様に御理解をいただけるよう、記載内容を分かりやすく表現するとともに、周知方法等についても引き続き検討してまいります。</p> <p>作成のプロセスにつきましては、実際にまちづくりに携わる方々へのヒアリング等を基に、9ページからの「2. 盛岡市中心市街地の特徴と課題」で各エリアの課題等を整理したうえで、26ページからの「3. 盛岡市中心市街地の将来ビジョン」でそれぞれの価値や魅力の向上に繋がり得る事項を行政側からの提案としてまとめておりますが、全ての内容を網羅しているものではなく、各エリアのまちづくり方針案は、地域の方々の意向や取組を考慮しながら、地域住民や民間事業者の方々との意見交換を通して、官民連携のアクションプランとして将来ビジョンをまとめていくことを目指しておりますので、成案後もまちづくりの状況に応じて更新する必要があり、デザイン戦略をもって今後の事業内容を縛るものではありません。</p> <p>今後の進め方につきましては、喫緊の課題を抱えるエリアや民間の活動連携の熟度が高まっているエリアを中心として、官民が連携してまちづくりを検討するため、まちの将来像を議論するとともに、その取組の実現に向けて協議・調整する場の構築を進めてまいりますので、御提案いただいた内容はその際の参考として承ります。</p>	D
23	盛岡駅前公共地下道周辺の案内拡充や盛岡駅構内の利便性向上について、鉄道事業者と連携しながら取り組んで欲しい。	<p>デザイン戦略においても、駅前通りエリアの課題として地下道を通して盛岡駅と駅前通りを往来するルートが分かりにくいことを挙げており、将来ビジョンとして盛岡駅前周辺の交通再編や駅前広場の再整備を提案として示しております。</p> <p>案内の拡充につきましても、盛岡駅前広場の再整備に関連することと認識しておりますので、当該エリアにおいて関係者と検討を進める際の御提案として承ります。</p>	D

(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略に関するパブリックコメント一覧と対応方針

【反映区分】 「A」 計画等に盛り込むもの 「C」 計画等に盛り込まないもの  
 「B」 計画等に盛り込み済みもの 「D」 その他、要望・意見・感想等

※ 「(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略」は「デザイン戦略」と表記します。

No.	要 旨	市の考え方	反映区分
24	デザイン戦略の作成はとても素晴らしい企画だと思うので、MORIOKA AGORAの特別展を市内の様々な場所で行うことで、新たな意見の収集や人の繋がり、協力者の増加に繋がるのではないかと。	デザイン戦略は、生きた計画として活用されることを目指しておりますので、成案後は各エリアの関係者とのまちづくり勉強会や協議の場で周知し、意見交換を実施することを想定しております。また、成案後の更なる周知方法についても検討してまいります。	D
25	街の賑わいを生み出すために交通基盤の整備は重要であり、盛岡駅の駅前広場、バス、タクシー乗り場の再編に賛成する。	デザイン戦略は、歩行者回遊・モビリティの点からも課題分析と将来ビジョンの提案をしており、盛岡駅前の交通再編や利便性向上は、多くの市民が望んでいることと認識しておりますので、関係機関との意見交換や協議の場を設け、検討してまいります。	D
26	街の資源や機能等、変えなくてよい部分はそのままに、変えることで市民や観光客が使いやすくなる部分を変えていくことが大切である。	未来に向け残していくべきまちの魅力や資源を大切にしながら各エリアにおいて適切なまちのあり方を検討してまいります。	D
27	公共交通の拠点としての盛岡駅の機能強化と中心市街地への自家用車の流入削減について、歩行者や自転車走行空間の整備などの他施策と連動させて進めるべきである。 課題として、盛岡駅の周辺については、駐車場とバス乗り場が分散しているため車を停めてバスを利用する行動に繋がりにくい、内丸や肴町、盛岡八幡宮周辺については大型の駐車場が少ない、明治橋方面も大型の駐車場や交通の結節点がないといった点があるが、駐車場が少ないのであれば駐車券提示によりバスへの乗車を可能にするといった手法で中心市街地への自家用車の流入や通過交通の削減に取り組むべきである。 また、自転車による観光ルートについて、現状の道路幅員では狭く危険であるため、上記のような交通のコントロールと併せて行うべきである。	御提案いただいた中心市街地への通過交通量削減などの事項につきましては、既存の個別計画でも検討されているものもありますが、デザイン戦略をベースとする新規事業等の計画立案過程においても御意見を参考にしております。	D
28	地方都市において自家用車での移動が難しい人はたくさんおり、自家用車での移動が前提となるような街では賑わいも交流も生まれず若い人たちは去って行ってしまうので、デザイン戦略の将来像を単なる戦略で終わらせず、一つでも多くの取組が実現することを願っている。	デザイン戦略において、限られた時間や資源を効果的に使って、理想の未来を実現するために今やるべきことを考え抜き、協力し合って実行していきたいという想いを「戦略」という言葉に込めており、御意見のとおり、実現に向けて市民及び民間の方々々と連携してまいります。	D
29	盛岡都心循環バス「でんでんむし」の運賃値下げや増便、中心市街地におけるバス専用（優先）レーン、優先信号の導入や、交通税導入による自家用車所有者への負担のほか、公共交通が公共財であることの意識付けを進めることを検討して欲しい。	公共交通への理解と利用促進を図ることは、中心市街地の形成に重要な課題のひとつと考えております。御意見は、交通施策全体の中で検討されるよう、担当部署と共有します。	D
30	MORIOKA AGORAの一連の取組に参加している人の主な属性を示してほしい。	「MORIOKA AGORA特別展覧会」や「～MORIOKA AGORA～（仮称）盛岡市中心市街地デザイン戦略に関する市民フォーラム」参加者の属性につきましては把握しておりませんが、特別展覧会につきましては、親子連れや学生から高齢の方まで、開催19日間で1,200名ほどの来場があり、市民フォーラムにつきましては130名ほどの来場がありました。	D
31	特定の通りや地区でそれぞれ行われてきた中心市街地の活性化に関する議論や取組について、MORIOKA AGORAにおいてそれらを統合、調整することは理解できるが、商業的な視点に偏っている印象があるため、サービスを受ける主体である住民にも目を向けるべきであり、同時に中心市街地全体の都市機能や生活環境といった面的な更新に関する施策にも触れるべきである。	御意見の中心市街地における都市機能や生活環境に関する事項は、デザイン戦略の上位計画に位置付けられる盛岡市都市計画マスタープランの地域別構想において示しており、デザイン戦略では、その方針を踏まえた上で、中心市街地の商業地としてのシェア低下やエリアの魅力向上につながるにくい土地利用、開発行為といった課題に対応するため、商店街組織等、主体的にまちづくりに関わっているの方々へのヒアリングを通して、エリアの特色に応じた都市整備の将来ビジョンを示すことを目的としているため、主に商業的な視点での記載が多くなっております。	D
32	まちづくりに関わる組織が乏しい、また機運が低いと思われる場所がグレーで塗りつぶされているが、このような場所も含んで全体の将来像を描くべきであり、そのような場所の地権者や建物所有者、事業者、住民にもMORIOKA AGORAへの積極的な参加を求めるべきである。	まちづくり方針のイメージにおいてグレー表記している場所につきましては、今回のデザイン戦略案作成では触れておりませんが、今後、デザイン戦略の更新時に順次反映可能なものを掲載してまいります。	D

(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略に関するパブリックコメント一覧と対応方針

【反映区分】 「A」 計画等に盛り込むもの 「C」 計画等に盛り込まないもの  
 「B」 計画等に盛り込み済みもの 「D」 その他、要望・意見・感想等

※ 「(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略」は「デザイン戦略」と表記します。

No.	要 旨	市の考え方	反映区分
33	<p>まちづくりにおいては、観光客など外から来る人を引き付け消費を促すことだけではなく、住民の利便増進を図り、定住者の流出を防ぐ、人口の増加を図ることが必要であると思うが、中心市街地における高層マンションの開発を市民が受け入れない、新規の住宅供給が見込めないという状況であれば、既存の低層住宅でしか新規の人口流入を受け入れることができない。</p> <p>その場合、既存住宅の更新促進、空き家の権利移転を容易化、空き商業ビル（店舗床）の住居用途への転換（改装）推進、低利用土地の集約、建物解体後の空き地の駐車場以外への利用推進などの検討が必要だと思われるし、盛南地域の新興市街地・住宅地への若年ファミリー層の流出を促してきた従来からの都市計画方針を見直す必要もあろうと思う。</p>	<p>御意見につきましては、デザイン戦略の上位計画である「盛岡市立地適正化計画（令和2年3月策定）」において、コンパクトな市街地の形成に、公共交通のネットワークの要素を加えた「コンパクト・プラス・ネットワーク」による持続可能な都市構造の形成を目指すこととまとめております。</p> <p>なお、デザイン戦略は中高層マンション等の建築物を規制するものではなく、開発業者と地域においてエリアのあるべき将来像を共有するための下地となることを想定しております。</p>	D
34	<p>櫻山地区において不燃化が喫緊の課題であることは明白であり、環境の健全化と併せて、歴史性と個性を活かした安全安心で魅力的な街に転換するため、例えば地上階を商業利用、上階を住宅利用とすることで賑わいと人口の維持の両立につながるのではないかと。</p> <p>また、鉈屋町なども保存事業から見過ごされてきたように思われるため、地元の機運を打ち出して国の重要伝統的建造物群保存地区への登録を試みるべきである。</p>	<p>櫻山参道地区につきましては、史跡盛岡城跡及び都市計画公園岩手公園（愛称「盛岡城跡公園」）内にありますことから、「史跡盛岡城跡保存活用計画」に基づき、お城の正面性の確保を考慮し、地域住民との合意形成を踏まえた上で、まちづくり方針の策定に取り組んでまいります。</p> <p>また、鉈屋町につきましては、地域の皆様との議論に基づき大慈寺地区景観地区に指定し、市民共有の財産である歴史的景観の保全と形成に努めてきたところであり、引き続き地域の皆様と連携を図りながらまちづくりを進めてまいります。</p>	D
35	<p>まちづくりの議論が活発化してきた中だが、市内の某書店では都市計画やまちづくり、景観計画関連の書籍が減っており大変残念に思うが、市やまちづくりの代表となる方などから申し入れなどはできないか。</p>	<p>今回のモリオカアゴラのような、まちづくり、都市計画、景観への関心が高まる取組を継続することで機運醸成に努めてまいります。</p>	D
36	<p>住宅に関する言及が少なく、建築関係者、工務店、設計者、デベロッパーといった建築に関係する民間事業者にデザイン戦略を浸透させていく仕組みが足りないと思う。</p> <p>窯業サイディングや工場で作られたパネルを利用したコスト優先の家は、年数が経過すると汚れて廃れるため街の景観を台無しにするほか、外構に気を配る工務店が少なく、砂利などで仕上げられるため街の景観が殺風景になってしまうが、地元の優れた工務店では、景観に調和し、年数が経っても美しく変化していく地場産材の木製サイディングやぬりかべの家を手掛けていることから、こうした工務店の支援やそれに続く事業者を増やすネットワークの枠組みを作るべきである。また、住宅建設における統一感、地域らしい景観の推進に向けたガイドラインを設けるべきと思う。</p> <p>具体的には、地場産材を使い、大工の手仕事で建設をする工務店と建築家のネットワークとそうした住宅建築への補助やこうした工務店の市民へのPR、住宅の新築時に建築家を使って建物と外構を一体で建築する場合への補助、安価な建売を助長する建築条件付き土地の販売規制、外壁に関する地場産材の木製サイディング、ぬりかべなどの利用促進と補助、工務店へ砂利だけの外構をやめるように働きかけることを提案する。</p> <p>なお、景観を台無しにする外部資本の高層マンションは規制を明確にすべきである。</p>	<p>デザイン戦略における「デザイン」につきましては、3ページ「(2) デザイン戦略とは？」のとおおり、道路の舗装パターン、建物の意匠、ストリートファニチャーの形状などのディテール（詳細）だけではなく、都市において、全体とエリア毎の特徴を活かしたまちづくりを進めるための方策そのものを総称、としておりますので、本戦略ではこのまちづくりを進める方策そのものに重点をおいております。</p> <p>御意見の住宅の外観意匠等に関する項目等につきましては、地域ごとに策定される地区計画等のほか、ガイドラインなどの検討における参考として承ります。</p> <p>また、外部資本の高層マンションの規制につきましては、長く受け継がれてきた盛岡の景観保全の観点から、景観や住環境に影響を及ぼすおそれのある中高層建築物の建設について、地域住民、開発事業者及び行政が相互理解の上でまちづくりを進められるよう「盛岡市景観条例」及び「盛岡市中高層建築物等の建築等に係る住環境の保全に関する条例」の一部改正を行い、事前に協議する仕組みを整えたところですが、引き続き、地域特性を考慮しながら地域住民とともに規制に関する公平性及び必要性を検討してまいります。</p>	D
37	<p>マンション開発について、建築費が高騰する中で投機的な動きによる高騰もあると思われるため、地域の所得に見合わない販売価格となり、結果的に空室の増加や管理不全などによる中心市街地の衰退が危惧されることから、総量の規制や条例により一定の歯止めをかけるなどの内容を盛り込んで検討して欲しい。</p>	<p>マンション開発に係る建設費の高騰として投機的な要因があるかどうかにつきまして、市として認識しておらず、販売価格の適正性についての分析等は行っておりません。</p> <p>ただし、分譲される住戸の販売状況につきましては、供用開始当初から空室が発生するなどした場合、長期修繕計画や修繕積立金などの見直しにおいて、将来的な管理組合の負担となる要因であることから、「盛岡市マンション管理適正化推進計画（令和4年3月策定）」に基づき、市として個々の管理組合の入居状況や管理状況の把握に努めるほか、適正な維持・管理について指導しております。</p>	D
38	<p>盛岡の景観に街路樹は重要であり、成長する街路樹の間隔やその後の雑草の手入れなど植栽のプロを交えながら、街に合う環境にやさしいつくりを意識して欲しい。</p>	<p>御意見の内容は、デザイン戦略の素案作成に当たってのヒアリングでもよく寄せられており、デザイン戦略で描く将来像を具体化していく際の御意見として承ります。</p>	D

(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略に関するパブリックコメント一覧と対応方針

【反映区分】 「A」 計画等に盛り込むもの 「C」 計画等に盛り込まないもの  
 「B」 計画等に盛り込み済みもの 「D」 その他、要望・意見・感想等

※ 「(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略」は「デザイン戦略」と表記します。

No.	要 旨	市の考え方	反映区分
39	車いすの方や高齢者にも優しい歩行者専用の広い道の整備を充実して欲しい。	御意見の内容は、デザイン戦略の素案作成に当たってのヒアリングでもよく寄せられており、デザイン戦略で描く将来像を具体化していく際の御意見として承ります。	D
40	中心市街地は街の行政、歴史、商業文化の中心であり将来にわたる保全が重要であり、人口減少と郊外の発展という問題を解決するためには中心市街地を魅力あるものとし、観光客や移住者を増やす取り組みが重要と思うが、魅力が十分に伝えきれていないのではないか。盛岡駅前や開運橋、大通などは多くの人知っているが、これらのエリアの外縁にあたるエリアはバス路線が分かりにくく認知度が低いため、バス事業者と連携して盛岡駅や盛岡バスセンターに方面ごとの路線図や観光名所の写真をつける、外国語表記の地図や運賃の支払方法の掲示を設置するなどの対応が必要である。	中心市街地の縁にあたるエリアにつきましては、第2期中心市街地活性化つながるまちづくりプランや都市再生整備計画（盛岡中心市街地地区）で対象とする区域に隣接し、文化や伝統を育むような民間の取組が活発であるエリアや、中心市街地との連携が考えられるエリアとして3箇所を加えており、それらのエリアと公共交通のハブとなる盛岡駅や盛岡バスセンターとのアクセスに関する御意見は交通施策全体の中で検討されるよう、担当部署と共有します。	D
41	中心市街地に住みやすい、商売しやすい環境づくりとして他都市で取り入れている固定資産税等の減免措置が重要と思う。	御提案いただいた内容は、今後の参考として承ります。	D
42	風呂敷を広げるように見える化して、大きく幅広く構えをもった形で今後の戦略を進めることはとても貴重な機会だと思う。盛岡市は、市街地だけではなく合併した歴史もあり産業も幅広いので、より多くの方が関心をもって、身近に感じてもらえるよう丁寧に進めていくことを願う。	デザイン戦略は、行政と民間とが連携し、まちづくりの将来像と実現のための方策を示すものであり、「生きた計画」として更新を続けていくことを想定しております。今後も引き続き、市民の「まち」と「まちづくり」への興味を高め、まちづくりを自分事として考え、多くの主体がまちづくりについて語り合い、行動につながるよう周知に取り組んでまいります。	D
43	デザイン戦略における「提案」は、誰から誰に向けているものなのか整理すべきである。	盛岡のまちは、これまで盛岡のまちづくりに「色々なかたち」で携わってきた多くの先人たちによってつくられてきたものであり、デザイン戦略をきっかけとして、行政に限らず多くの主体が自分事として「盛岡のまちの未来」について考え、目に見えるビジョンとして描き（デザイン）、それを実現していくための方法（戦略）とともに示すものです。今を生きる私たちを含め、次世代にまちづくりのバトンをつなぐための「提案」であると考えております。	D
44	デザイン戦略の作成に当たりヒアリングした方々について、ジェンダーバランスが気がりである。ジェンダーバランスのほか、世代のバランスを意識せずとも当たり前になるのが理想であるが、そこまで至らない状況であれば過剰なくらい意識することが必要であると思う。	デザイン戦略の作成に当たり御協力いただいた皆様につきましては、実際にまちづくりに携わる方々として市側でお願いしたものでございますが、御意見のとおり男性か女性かという区別では男性が大半となりました。まちづくりにおいては、性別等だけではなく、様々な属性に関わらず参画することが必要な視点であるため、デザイン戦略成案化後の運用において配慮してまいります。	D
45	10ページ以降の「エリアごとの特徴と課題」について、民間の取組は多く書かれているが行政の取組は都市整備部に関するものに留まっている印象があるので、まちづくりやデザインという包括的・抽象的な言葉を使うのであれば、商業や子育て、福祉などに関しての市の取り組みも記載すべきではないか。	デザイン戦略においては、8ページの「(1) 盛岡市中心市街地全体の特徴・課題及び中心市街地全体のまちづくりの方針」にあるとおり、自然を取り込んだまちづくり、各エリアの個性に触れられる魅力的な情報発信、公共空間・歩行者空間整備によるエリア間連携の促進、地域自然を活かしたオープンスペース整備としているためハード整備に関する事項が多くなっていますが、御意見のような商業や子育て、福祉などソフトに関する事項も必要な要素であることは認識しておりますので、今後の更新においてハード整備に関連する取組について必要に応じて対応してまいります。	D

(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略に関するパブリックコメント一覧と対応方針

【反映区分】 「A」 計画等に盛り込むもの 「C」 計画等に盛り込まないもの  
「B」 計画等に盛り込み済みもの 「D」 その他、要望・意見・感想等

※ 「(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略」は「デザイン戦略」と表記します。

No.	要 旨	市の考え方	反映区分
46	<p>まちづくり方針のイメージにある吹き出しは、「■公共空間整備・民間の取組のアイデア（提案）」を反映させた先に期待する市民・観光客の反応としてとても分かりやすいと思うが、エリアごとの特徴と課題とのリンクが薄いと感じるので、例えば「アーケード南側は新しいお店を出しやすいね」だけでなく、「アーケード南側に空き店舗が目立ってきた」という課題も地図上にあると、変化や狙いが分かりやすいのではないか。</p>	<p>デザイン戦略の構成といたしまして、大まかに9ページからの「2. 盛岡市中心市街地の特徴と課題」で各エリアの課題等を整理したうえで、26ページからの「3. 盛岡市中心市街地の将来ビジョン」でそれぞれの価値や魅力の向上に繋がり得る事項を示しております。将来ビジョンでは行政側からの提案やまちづくり方針のイメージにおいて、黄色い吹き出しで将来こうなったら良いのではないかと、といった点や提案実現後の活用イメージを記載しておりますので、御理解ください。</p>	D
47	<p>デザイン戦略の作成に関する広報はまだ不十分と思うが、今後、パブリックコメントの実施を知らなかった人も出てくると思うので、今後も意見を出す機会を設け、発信し続けて欲しい。  デザイン戦略の作成に関する一連の取組を踏まえて、素案がどのように変わっていったか公開することで、自分の参画によって変わったことが実感され、事業にとっても後押しになると思う。</p>	<p>従来のパブリックコメント手法だけではなく、デザイン戦略の周知と併せ、気軽に意見を出せるような仕組として特別展示会を企画しました。デザイン戦略は、今後も生きた計画として活用されることを目指しておりますので、成案化後は各エリアの各種団体とのまちづくり勉強会等、対話できる場を創出し、意見交換を実施することを想定しております。  また、成案化後は市公式ホームページで公開するとともに、周知を図る方法についても検討してまいります。</p>	D
48	<p>紺屋町エリアにおける旧奥州街道の街路整備について、デザイン戦略では南側が岩手銀行赤レンガ館まで着色されているが、観光客や歴史的な街並みの視点としてはその先のもりおか啄木・賢治青春館や旧栃内病院あたりまで一体として整備を検討すべきではないか。</p>	<p>紺屋町のコミュニティ道路整備・無電柱化につきましては、盛岡バスセンター周辺地区公民連携まちづくり勉強会での検討において候補事業とされたものですが、将来ビジョンにおいて提案されていない場所、通り等につきましても、地元要望や民間の取組、行政の取組の今後の状況により検討箇所に加えていく考えです。</p>	D
49	<p>デザイン戦略には目標年次等の具体的な記載がないが、こういった目的で作成し、今後どのように事業を進めるのか。計画なのか今後のまちづくりの参考とする手引きや指針のような位置付けなのか不明である。</p>	<p>デザイン戦略は、盛岡のまちづくりを担う方や盛岡で働く方、そして盛岡にお住まいの方と、中心市街地の理想的な姿を話し合っ、目に見えるビジョンとして描き（デザイン）、それを実現していくための方法（戦略）とともに示すものです。計画ではなく現状と将来像を共有し合うものであり、上位計画と個別の計画をつなぎ、官民での活発な意見交換の「題材」として、また、官民双方が創意工夫に満ちたまちづくりを推進するための指針として活用されることを想定するものです。そのため、目標年次等を具体的に定めて記載することはしておりません。</p>	D
50	<p>デザイン戦略の成案化後は、小冊子などにして市公式ホームページだけではなく簡単に目に付くように努めるべきではないか。行政の計画が規制等の確認以外で紐解かれることは少ないという認識のようだが、紐解かない責任を市民に押し付けるのは行政の怠慢と思える。</p>	<p>デザイン戦略は、策定して終わりではなく、生きた計画として活用されることを目指しておりますので、各エリアの各種団体とのまちづくり勉強会等、対話できる場を創出し、意見交換を実施し、随時更新されていくことを想定しております。製本は現時点で予定しておりませんが、市民周知の重要性は御意見のとおりですので、まちづくり勉強会等での広報に努めてまいります。  計画が「紐解かれることは少ない」という点につきましては、必要がない限り目に触れることは少ないという状況認識を示す趣旨であり、責任の所在を記載したものではありません。</p>	D
51	<p>マンション建設などの開発行為は市の景観条例など法令に則っていれば許可されると思うが、デザイン戦略は個別計画が策定されるまでの間の民間開発等を誘導する「根拠」としている理由は何か。強制力のある条例のように義務や罰則の規定を今後検討するのか。</p>	<p>デザイン戦略自体は、法定計画ではないため民間開発に対して何らかの強制力を有するものではなく、御意見の建築や景観に関する義務や規定は、「盛岡市景観条例」及び「盛岡市中高層建築物等の建築等に係る住環境の保全に関する条例」の一部改正により、地域住民、事業者及び市が建築計画に対し事前に調整できる仕組を整えるものです。  「根拠」という表現につきましては、行政と民間が共有するデザイン戦略でまちづくりの方向性を示しておくことにより、事前調整の話し合い等において、デザイン戦略の存在を考慮し、開発等のあるべき方向に誘導できるという趣旨です。</p>	D

(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略に関するパブリックコメント一覧と対応方針

【反映区分】 「A」 計画等に盛り込むもの 「C」 計画等に盛り込まないもの  
 「B」 計画等に盛り込み済みもの 「D」 その他、要望・意見・感想等

※ 「(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略」は「デザイン戦略」と表記します。

No.	要 旨	市の考え方	反映区分
52	デザイン戦略の内容を進めていく上では市の各部署との連携が必要となると思うが、進捗状況の把握などはどの部署が行う予定なのか。また、記載した内容がどれだけ具体化されたかなど、年に1度は公開すべきではないか。	これまでも上位計画や個別計画等において事業等の進捗状況の確認をしておりますことから、今後も同様に各種計画において事業進捗を確認するものと捉えております。なお、MORIOKA AGORAの取組において各エリアの計画・課題共有の場とすることを目指しており、まちづくりの取組とその変遷を記録し、多くの人が容易にアクセスできる場所にアーカイブを残す仕組みも整えていけるよう今後検討してまいります。	D
53	エリアごとの特徴と課題において、取組には構想段階のものを含む旨の記載があるが、内容を確認しないと分かりにくいいため、行政と民間、実施しているものと構想段階のものなどを区別する表記とすべきではないか。	エリアごとの特徴と課題に記載する取組につきましては、現在の実施状況に関わらず、より良い将来像の実現につながると思われるものを記載しているため、状況による区別はしておりません。	D
54	映画館通りエリアの課題として、街路樹撤去後の植樹ますの取扱いがあると思う。歩行者にとって危険であるとともに、見苦しいものである。また、大通りでは自転車走行レーンの表示が消えていて危険であるなど、デザイン戦略作成以前の問題として、施設管理をしっかり行うべきである。	現在の維持管理の問題点については担当部署へ伝えるとともに、今後デザイン戦略の更新の際に地元との意見交換を踏まえ、デザイン戦略への反映を検討していくこととします。	D
55	28ページの図について多くの色や線が使用されているが、工夫して分かりやすい図面表現に努めてほしい。	現在の図面は、各関連計画の現況と提案を示し、将来的なルートやつながりを確認できるようにするため、凡例や路線を示す色が多くなっております。今後の更新において、御意見を参考として、視認性を高める構成を検討いたします。	D
56	まちづくり方針のイメージにある吹き出しは何を言いたいのか、理想的な将来像と現在の状況が混在していて無意味である。各エリアの提案を図に記載するか、提案主体や実施主体を行政、民間など分類して表記すべきである。	まちづくり方針のイメージの黄色い吹き出しにつきましては、提案実現後のイメージを記載しており、今後、提案の将来ビジョンの具体化を進める中で、地元の理解・協力をいただきながら実施主体を明確にしていきます。	D
57	内丸・中央通りなどのまちづくり方針のイメージにおいて、現在の市庁舎は緑地化されているようだが、これはいつ決まったことなのか。決定事項でないのであれば、このような表現は誤解を招くのではないか。	現在の市役所本庁舎の位置に関するイメージにつきましては、まちづくり方針のイメージに赤字で記載しているとおり「各エリアの将来ビジョンの例」であるため、決定事項ではありません。	D
58	デザイン戦略で対象とする範囲以外にも盛岡らしさを持つと思われるエリアはあると思うが、その区域を除外して限定する理由を明確にすべきではないか。	盛岡のまちづくりの歴史として、これまで拡大・成長期の状況下のなか市街地の拡大を進めてきましたが、人口減少や少子化・高齢化を背景とした縮退・成熟期において、都市の生活や文化の基盤となってきた中心部のあり方を今一度考える必要があるとの認識から、デザイン戦略の策定を進めているものです。 なお、16地区については、対象区域の中でも、まちの形質や民間の組織やその取組に応じて細分化したものであり、まちづくりの状況等に応じて変更する可能性があります。	D
59	「今後に向けて」に記載されているものは個別計画によるものとするのか。また、検討する順序はまちづくりのルール化が先で、それをベースに事業化すると理解して良いのか。	「今後に向けて」は、優先的に取組を考えると趣旨であり、6つのエリアの事業化やまちづくりのルール化の検討に当たっては、官民が連携しながら、デザイン戦略の将来ビジョンを踏まえ、必要に応じた取組を選択していくことを想定しております。	D
60	エリアの名称について、橋梁や商店街、通り、河川など統一性がないと感じるため整理すべきと思う。また、それぞれの範囲が不明確である。	エリアの名称につきましては、一つの属性によらず、大まかな場所がイメージしやすいと思われるものを付けております。範囲につきましても、今回分けたエリアで固定するものではないことから、今後取組等を具体化する過程において、名称や範囲の再編もあるものと認識しております。	D
61	10ページの駅前通りエリアのエリアごとの特徴と課題と8ページの赤枠で示す中心市街地範囲を比較すると、10ページの図面範囲は全体図の半分にも満たないのではないかと。デザイン戦略の中に組み込むのであれば課題や方針を示すべきであり、内容が特にないというのであれば、全体図から除外して戦略の対象区域のみを明示すべきではないか。	図の範囲につきましては、全体図はデザイン戦略で対象とする全域が収まる範囲で切り取っており、各エリアの図については特記すべきと思われる事項がある範囲を大きく表記しているものであり、今後の検討においてエリア内の他の場所等でも特記する事項が出る場合は図の範囲を更新する可能性があります。	D
62	8ページの課題③において「エリア間のつながりが薄い」とあるが、「薄い」とは具体的にどのような状況と判断しているのか、さらに「～エリアを結ぶ歩行者動線も整っていないため、中心市街地全体の回遊性が低い」の「低い」についても説明が必要ではないか。 また、回遊性の向上の「向上」とは市としてどのような状態を求めているのか、サイン整備のほかに何かあるのか。	デザイン戦略はヒアリング等の内容を踏まえ取りまとめたものであり、エリア間のつながりが「薄い」、中心市街地全体の回遊性が「低い」という表現につきましては、例として盛岡駅前、材木町、大通りはそれぞれ魅力があるものの、その間にある通りや場所を活用することで地点同士が結ばれ、より回遊性が向上する可能性があるという趣旨で使用しております。	D

(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略に関するパブリックコメント一覧と対応方針

【反映区分】 「A」 計画等に盛り込むもの 「C」 計画等に盛り込まないもの  
 「B」 計画等に盛り込み済みもの 「D」 その他、要望・意見・感想等

※ 「(仮称) 盛岡市中心市街地デザイン戦略」は「デザイン戦略」と表記します。

No.	要 旨	市の考え方	反映区分
63	8ページの方針④は、緑やオープンスペースを増やすことについて現在の関連計画などでは対応しきれていないという意味なのか。29ページ以降のエリアごとの将来ビジョンでは、緑やオープンスペースの表記が驚くほど少ないと思う。	オープンスペースの整備につきましては、緑地だけではなく、空地や平面駐車場における恒常的及び一時的な広場化なども含みます。	D
64	8ページの赤破線の「エリア間のつながり」について、何がどうなると「つながる」と判断するのか。	公共空間整備等によりそのエリア間の回遊性が向上し、民間の取組の連携が図られる状況を「つながる」と考えます。	D
65	10ページに駅前通りエリアの課題として東口のバスロータリーでバリアフリー化がおこなわれていない旨の記載があるが、バスから車道側に降ろされるような停留所がある現状では、バリアフリー化以前の問題でありバス事業者と早急に協議して改めるべきではないか。	駅前通りエリアにおける今後の検討においては、バス事業者のほか、交通事業者との連携が必要であることから、参考として承ります。	D
66	46ページ以降の「エリアごとの方針と地域の状況を踏まえた、当面の対応(案)」について、枠内の記載内容は当該エリアの大きな課題であり、「当面の対応」欄の実施主体としては行政、民間にそれぞれ役割があると思うが大雑把な印象があるため整理すべきではないか。	46ページの各エリア枠内の記載につきましては、御意見のとおりです。当面の対応における役割につきましては、主体は誰になるかは、アクションプラン等により具体化していく際に役割分担等を明確にしていきたいと思います。	D
67	46ページの大通商店街エリアの「当面の対応」にある「組織形態や事業内容の精査」は誰が行うのか。大通商店街は規模が大きい商店街だが、居酒屋やカラオケ屋が多く残念な状況に感じるので、デザイン戦略の作成により官民で改革を進めて欲しい。	「当面の対応」記載の内容や主体は誰になるかは、今後の話し合いの状況により役割分担した上で記載できるように更新してまいります。大通商店街の現状に関する御意見につきましては、今後の官民での検討における参考といたします。	D
68	36ページの「中央通りの道路空間再配分の検討を通じた、人中心の街路空間の形成」とは、中央通りを拡幅し幅員構成を考えるということなのか、また内丸地区再整備基本計画(内丸プラン)との整合を図る必要がある。	内丸・中央通りエリアにつきましては、御意見のとおり内丸地区再整備基本計画(内丸プラン)が対象とする範囲と重なることから、デザイン戦略においても同計画の方針と整合させてまいります。中央通りの道路空間再配分という点につきましては、同計画の中間とりまとめ(令和5年3月)において、「歩行環境の充実、自動車の速度抑制や段階的な進入抑制等」により人中心の空間を目指す方針が示されているほか、同計画基本方針編において示されている「中央通りの道路空間再配分の検討」に沿うものです。	D
69	47ページの櫻山・大手先通りエリアの当面の対応において、「自分ごと化」という表現があるが、誰が自分ごととして捉えるのか、また表現として適切なのか。このエリアについては、過去に飲食店等の再整備に大失敗しており、市の事業の進め方の問題点をよく考える事例とすべきである。	櫻山界隈における建物更新のルール化と主体の把握に関して行政、民間に偏ることなく、関わる方皆さん自身が自分事化を進めるという趣旨です。事業の進め方につきましては、櫻山・大手先通りエリアに限らず、官民の歩調を合わせて連携することが重要と認識しておりますので、参考として承ります。	D
70	紺屋町・葺手町エリアにおいてはマンションの建設が大きな話題となった経緯があり、アクションプランの早急な策定が望まれる。関係条例の一部改正の目途が立ったようだが、これらの周知を徹底することと他のエリアでも適用できるものにする必要がある。	中高層建築物に係る施策として、「盛岡市景観条例」及び「盛岡市中高層建築物等の建築等に係る住環境の保全に関する条例」の一部改正で対応することとしており、これら条例の内容について周知を図っていくこととしております。	D
71	エリアごとの将来ビジョンにおける「まちづくりの方針イメージ」の凡例の色使いが淡いため、もう少し明瞭にするか、斜線を付けるなどの工夫が必要ではないか。	デザイン戦略の性質上、まちづくり方針(案)のイメージ図は、現時点ではアクションプランとして決まったものではありませんので、建物配置や位置が詳細に特定されないように配慮しております。	D
72	盛岡らしさをテーマに深掘した「美食王国もりおか」を根底に置き、長期的展望を持ち、盛岡市全域を対象としたデザイン戦略を進めて欲しい。	デザイン戦略は、これまでの拡大・成長期から人口減少や少子化・高齢化を背景とした縮退・成熟期において、都市の生活や文化の基盤となってきた中心部のあり方を今一度考える必要があるとの認識から策定を進めているものであり、盛岡の中心市街地における多様な資源や文化を取り入れた取組については、今後の更新において参考として承ります。また、対象範囲を市内全域に広げることは現時点で予定しておりません。	D